

「上山城」からのたより 冬・第164号

「ひな祭り」にまつわる「なぜ？」

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

今年も「ひな祭り」の季節と相成りました。そろそろ「ひな人形」の展示の準備をせねばと、年々動きが鈍くなっている心身に鞭を打ちつつ奮闘しているところです。

さて、その「ひな祭り」について、おそらく多くの方が「なぜ？」と思いつつも、未解決のまま放置してきたであろう事柄をいくつかご紹介したいと思います。

「なぜ？」パート① ひな人形は元々魔よけの呪具だった？

ひな祭りは奈良時代(千三百年くらい



前、「五節句」の行事の一つとして貴族の間で始められました。「五節句」とは、一月一日(元旦)・三月三日(上巳)・五月五日(端午)・七月七日(七夕)・九月九日(重陽)を指します。中国の陰陽道では、奇数

(一・三・五・七・九)が重なるとき災いが起こるとされ、「五節句」の日には災いから逃れるために神様にお供えをして邪気払いを行いました。

そういった事情から、当時のひな祭りでは、人形(人型の紙人形)は見つて楽しむ「鑑賞用」ではなく、人間に降りかかる災いを受け止める「身代わり」として使われていました。

「なぜ？」パート② 「ひなあられ」の色には色んな意味あり？

「ひなあられ」には、あられの色が三色(赤・白・緑)のものや四色(赤・緑・黄・白)のものがあります。

三色の場合、赤は「生命」、白は「雪」、緑は「木々に芽吹く新芽」を表しており、娘がそれらのパワーを取り込むことで健康やかに成長してほしいという意味が込められています。

一方、四色の場合は、赤は「春の桜」、緑は「夏の新緑」、黄は「秋の紅葉」、白は「冬の雪」と日本の四季を表しており、娘が四季を通じて健やかで過ごせるようにとの願いが込められています。以上、二つの「なぜ？」について解説してきましたが、

いかがだったでしょうか？ひな人形を鑑賞しながら、前記の知識を家族や友人、恋人に披露すれば、貴方の株価は急上昇まちがいなし！だと思いますよ(笑)

最後に、上山城では今月三日から来月二日までひな人形展を開催しますので、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

【常設展示室から】二階常設展示室に文政六年作成の藤井松平家「御館」(上山に築かれた藩主一族の邸宅兼藩の役所)の間取り図を展示しました。